

令和4年度 大阪狭山市公の施設の指定管理者 評価結果表

施設名	大阪狭山市文化会館（SAYAKAホール）
指定管理者	公益財団法人大阪狭山市文化振興事業団
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日（5年間）
所管部署名	政策推進部 公民連携・協働推進グループ
指定管理料	192,623,000円（令和4年度決算額）

1. 指定管理の概要

(1) 指定管理施設の概要

所在地	大阪狭山市狭山一丁目875番地の1
事業内容	市民に優れた文化・芸術に触れる機会を提供し、市民自らの文化活動の展開によって、文化の創造及び振興を図る。
施設内容	大ホール〔1,208席〕、小ホール〔368席〕、コンベンションホール、展示ホール、リハーサル室1、リハーサル室2、小会議室1、小会議室2、中会議室、大会議室、和室、美術室

(2) 指定管理者の概要

団体名	公益財団法人 大阪狭山市文化振興事業団
所在地	大阪狭山市狭山一丁目875番地の1
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・総務管理事業（施設及び設備の維持管理ほか） ・施設事業（ホール系、諸室系の貸出、駐車場の管理運営ほか） ・自主事業（鑑賞型事業、創造型事業、市民参画型事業、教育普及型事業） ・地域文化支援活動事業（文化の花咲かそ補助金ほか） ・基盤整備事業（SAYAKA ニュースの発行、友の会設置ほか）

2. 評価の結果

評価項目	評価点	
	一次評価 (指定管理者 の自己評価)	二次評価 (市の評価)
1. 市民の平等利用、サービス向上、利用促進について		
(1)市民の平等利用、サービスの質の維持・向上について	3	3
(2)施設の利用促進について	4	4
2. 適正な管理運営について		
(1)管理運営の実施状況について	4	3
(2)安全対策、危機管理体制について	3	3
3. 管理経費の縮減等について		
(1)指定管理に係る費用について	3	3
(2)経費の縮減に向けた創意工夫について	3	3
4. 課題への対応について		
(1)提案内容や改善すべき点への対応について	4	4
合計	24	23
【総合評価】	A	A

3. 「2」における評価の理由

指定管理者 の自己評価	<p>優れていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあって抑えられていた施設利用者の感情が表れてきており、「やりたい欲求を満たす」ための様々な要望に応えるべく、事務所スタッフ及び舞台スタッフが一丸となって対応した。安心、安全を心掛け、清掃やアルコール消毒を設置する等、「来館しやすいホールづくり」を常に意識した。 ・ホール系（大ホール・小ホール）をはじめ、諸室関係を合わせた稼働率が前年度から約10ポイントずつ上昇し、通常の運営状態に近づいた。（施設全体：72.4%、大ホール：54.4%、小ホール：67.1%） ・コロナ禍においての市民及び各文化団体の現状の活動状況をヒアリング等で把握し、文化協会をはじめとする個人実演家や市内の文化関係諸団体との関連性を深めるとともに支援に努めた。 ・ホームページを効果的に活用し、施設利用に関する情報を提供する等、コロナ禍での利用者及び来館者への配慮に努めた。また、自主事業では開催にあたって支障なく実施することができ、多くの参加者を得ることができた。 <p>改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化・老朽化による疲弊が会館全体で目立っている。不具合箇所を
----------------	---

	<p>修繕するにあたり、部品の調達に時間を要するものが増えてきている。利用者に迷惑を掛けないように、迅速な対応に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設利用率を一定水準に保ち、利用料や駐車場運営収入の確保に努める。
	<p>提案内容、前年度の改善すべき点への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気代、ガス代が高騰し、予算上の圧迫を受けている。職員をはじめとする会館従事者への省エネへの意識づけの強化、エコ水準を考慮した空調の温度設定に努めた。 市が実施するE S C O事業に協力し、市・工事の受託事業者・当事業団が三位一体となり、相互の調整を積極的に行った。今後は更新された設備の省エネ化を有効・効率的に使用し、光熱水費の削減を図る。 駐車場運営について、直近2年間にわたり施設収容率の制限等を受け、来館者数減少の要因となっていたが、国の方針による制限緩和の動きに合わせ、徐々に来館者数も増え運営が安定してきた。
<p>市の評価</p>	<p>優れていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設稼働率が前年度から約10ポイント上昇し、コロナ前の水準に戻りつつある。 文化活動の再開にあたり、市民が安心して施設を利用できるような環境づくりや相談体制づくりに努めている。 ホームページ等を活用して公演情報やチケット発売の告知を行い、広告宣伝に繋げた。 <p>改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設利用率がコロナ前の状況まで回復できるように、引き続き、創意工夫し取り組まれたい。 <p>提案内容、前年度の改善すべき点への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設利用者及び来館者からの苦情等について、内部会議で検討材料とし、改善に努めている。また、コロナ禍における市民及び各文化団体の状況把握に努めている。 施設利用者の満足度を高めるため、事務局職員及び舞台技術スタッフでの質の高い打合せに努めるなど、利用者目線に立った運営を行い、施設利用率は令和3年度の61.0%から令和4年度は72.4%に回復した。